

文化スポーツ観光常任委員会委員会調査報告書

令和7年9月2日（火）に、アサンテ スポーツパーク（神奈川県立スポーツセンター）外1か所において、次の事件について調査を実施したところ、その概要は別添のとおりでした。

【調査事件】

- ・ 文化の振興に関する事項について
- ・ スポーツに関する事項について

令和8年1月22日
神奈川県議会議長 長田進治様

文化スポーツ観光常任委員会委員長 高橋延幸

1 調査の概要

(1) 調査日程

令和7年9月2日（火）

(2) 調査箇所

ア アサンテ スポーツパーク（神奈川県立スポーツセンター）（藤沢市善行7-1-2）
イ 神奈川県立県民ホール本館（横浜市中区山下町3-1）

(3) 出席委員（計12名）

高橋延幸委員長、作山ゆうすけ副委員長、
吉田あつき、渡辺紀之、河本文雄、内田みほこ、森正明、飯野まさたけ、松崎淳、
藤井深介、松川正二郎、北井宏昭の各委員

(4) 随行者

渡部主事（議会局議事課）、箱崎副主幹（文化スポーツ観光局総務室）

(5) 行程

県庁～アサンテ スポーツパーク（神奈川県立スポーツセンター）
～神奈川県立県民ホール本館～県庁

2 アサンテ スポーツパーク（神奈川県立スポーツセンター）

(1) 調査目的

神奈川県立スポーツセンターは、スポーツを推進し、県民の誰もが生涯にわたりスポーツを楽しみ、県民の心身の健全な発達、健康で明るく豊かな生活及び活力ある地域社会の実現に寄与することを目的に設置された、本県における代表的な県立総合スポーツ施設である。

再整備を経て令和2年にリニューアルオープンした同センターは、屋内外における豊富なスポーツ施設や宿泊棟等を有し、一般利用から大会・合宿の受入れまで幅広くスポーツに係る用途に対応しており、令和7年にはネーミングライツを取得し、アサンテ スポーツパークの愛称で運営されている。

そこで、アサンテ スポーツパーク（神奈川県立スポーツセンター）を訪問し、同センターにおける多様な施設を活用したスポーツ推進に係る取組について調査することにより、今後の委員会審査の参考に資するものとする。

(2) 文化スポーツ観光局出席者

三枝茂樹スポーツ担当局長、吉田崇スポーツ課長、松田剛志健康・パラスポーツ推進室長、小谷昭彦スポーツセンター所長

(3) 委員長挨拶



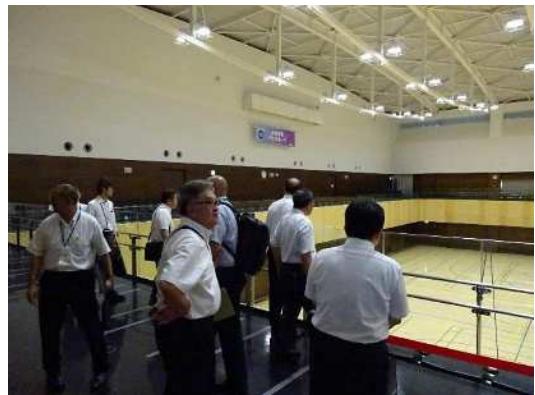
(4) スポーツ担当局長挨拶

(5) 概要説明

次の内容等について、説明があった。

- ア アサンテ スポーツパーク（神奈川県立スポーツセンター）の沿革
- イ 宿泊棟
- ウ スポーツアリーナ2の各施設
- エ 陸上競技場等屋外施設

(6) 施設視察



(7) 質疑応答

質 疑 学校教育との連携について、県立スポーツセンターは、総合教育センターと隣接しているが、そういった連携は行っているのかどうか。

応 答 当センターの所員の多くは教員籍であり、元々高等学校ないしは特別支援学校の教員の経験がある者が職員として配置されており、そこに県の事務職員が加わるという形であり、教員籍の人間のほうが多いという形で、事業を展開している。

また、当センターの所員は、総合教育センターの所員も併任しており、所

長についても、スポーツセンターの所長であると同時に総合教育センターの体育指導センター長という形で業務に携わっている。スポーツセンターの所員も体育指導センターの指導主事を兼ねる形で教職員の研修等で総合教育センター側と協力しており、さらに体育指導センターの所員もまた、スポーツセンターの所員と併任しており、スポーツセンターの様々な競技力向上や健康スポーツの普及、パラスポーツの普及等といった業務に取り組んでいる。今日に至るまでの日本の体育・スポーツの発展において、学校教育とスポーツ行政は切っても切り離せない関係であり、本県における当センターにおいてもやはり、学校教育と常に連携・協力しながら取組を進めている。

質 疑 教員の働き方改革等により、部活動においても教員以外の方が指導されるようになってくるわけだが、部活動のそういった指導員になられる方々も、例えば本センターのような施設を活用し、教え方のノウハウを得るといったことも必要だと思うが、そういった連携についてはどうなっているか。

応 答 部活動指導者等のいわゆるスキルアップ・資質向上の研修については、体育指導センターでの実施になるが、年間を通じて計画的に研修等を行っている。様々なモラルや、今様々な所で問題になっているパワハラやセクハラの問題、そういうことがスポーツの現場で起きないようにというような内容も含めて、また技術的な指導法も併せて研修という形で取り組んでいる。

また同時に、当センターのほうでも、競技力の向上や健康スポーツといった取組・事業の中で、地域指導者のスキルアップのための研修講座を年間を通じて事業として展開している。

質 疑 ネーミングライツについては、料金として年間でどの程度のものなのか。

応 答 年間 660 万円である。

質 疑 日産スタジアムほどの集客は前提にしないまでも、ネーミングライツについてはどういった基準で実施しているのか。

応 答 額を設定するに当たっては、他県や県内のスポーツ施設のネーミングライツの状況などを確認しつつ、設定した。例えば、県内の県立各施設のネーミングライツを見ても、80 万や 100 万といった辺りの価格帯になるが、今回、担当者が様々調査する中で、類似の施設、例えば滋賀県など、県外の類似施設を見ると、高額に設定している所が見受けられた。当センターについても、駅からのアクセスが良いなど、とても良い立地なので、比較的高額で試みたところである。

そういう中、今回は、株式会社アサンテというシロアリ駆除関係のメーカーだが、一部上場するような企業で決定した。本社は東京だが、神奈川県内にも支店を持っている企業で、決定となった。

全ての県立スポーツ施設で 660 万円というネーミングライツは厳しいかも

しれないが、県立施設の中でも比較的高額のネーミングライツとなった。

質 疑 先ほど、屋外施設を様々視察した際、フットサルコートとテニスコートに照明設備が付いており、非常に利用率が高いという説明があった。やはり、今これだけ夏が暑くなつており、まだまだ暑さも続いていくということになると、やはり夜間の利用を増やしていった方が利用率が上がるのではないかと、特に屋外については思ったところだが、ほかに夜間利用の余地がある施設はあるのかどうか。

応 答 今お話を頂いた利用率を上げる方法については、こういったような気象状況の中では、全体的に実現できれば理想だというのは間違いないが、正直、費用面であるとか、特に球技場のほうについては、そのほかの要素として、近隣住民の方への影響ということを考えると簡単ではないと思っている。当然、スポーツの振興また普及という側面で言えば、本当に委員のおっしゃる通りだと思うが、そういった形で実現していくためには、どのような手立てがあり、またどんな課題があるのかといったところは、またしっかり考えていかなければならぬと認識している。

質 疑 夜間利用が難しい理由として、陸上競技場のほうについては、広域避難所に指定をされているため、ヘリコプターの進入時に利用者がいると困るから実現できなかつたということもあるのではないか。お金などで解決できる問題とは別のところで、そういうこともあると認識しているがどうか。

応 答 ヘリコプターの進入ルートというようなことも要因としてある。

質 疑 夜間利用の話に関連してだが、利用時間を早朝からにするなどというのはどうか。例えば、午前5時など夏場でも涼しい時間帯で。涼しいのは夜も同様だが、そうであれば照明も不要であり、そのような朝早くに活動する人も結構多いと思う。現在の利用時間は何時から何時までか。午前7時などでも涼しく、そういう時間帯に活動してもらうというのもよいかと思うがどうか。

応 答 利用時間については、現在は午前9時から午後9時までとなつてゐる。それを午前5時や午前7時からとしてはどうかということで、そういう考え方についても可能であるかどうかも含めて今後検討していきたいと思う。

意 見 説明のあつた照明設備についてだが、フットサルコートの照明設備というのは、元々宿泊に関して、オリパラもそうだし今回のデフリンピックもそうだけれども、外国のチームを誘致するという大前提があると宿泊施設も充実していくべきだという話があつた。その話の中で、合宿をしたときに夜はや

ることがなく、手持ち無沙汰になるため、照明設備のついたフットサルコートでストレッチしたりウォーキングしたりといったことに時間を費やせるように照明設備があったほうがいいのではないかというような検討過程もあったことを覚えているので、申し上げておく。

質 疑 フットサルコートについては、9割近い利用率であるという話であったが、プールやトレーニングルームといった他の施設についても一定程度の目標を設定されていると思うが、そういった他の施設における利用人数がどの程度あるか、またそれを上げるためにどのような取組をしているか。

応 答 プールやトレーニングルームについては、ほぼ90%の利用率ということで、概ね目標に到達しているかと思う。一方で、宿泊施設のほか、ボクシングやフェンシング、ウェイトリフティングの専門競技フロアについては、競技の特性上、なかなか稼働率が上がらないということで、このような施設についてどのように稼働率を上げていくかが課題であると認識している。

質 疑 それについてはどう考えているか、現時点での考えがあれば伺いたい。

応 答 例えば、宿泊棟であれば、現在は、当センター内の施設を利用する方に限り、宿泊を可能とする運用をしているが、それを拡大するかどうか検討をしていきたいと考えている。また、専門競技フロアについては、サッカーやバスケットボール、バレーボールのように競技人口が多いスポーツを対象としていない中で、団体等に働きかけをして利用を促進する形で、稼働率を上げるように取り組んでいきたいと考えている。

質 疑 2点、質問したい。

1点目は、アリーナ1を修繕したと聞いたが、今までのアリーナ1から変化した特徴的な点があれば伺いたい。

2点目は、現在、ここが神奈川県の最も中心的なスポーツセンターと言えるわけだが、厚木にもかつてスポーツセンターがあり、また西湘には今もあるとはいって、そういう県内のセンターの集約としてここがあるのか。広い神奈川県で、この藤沢のセンターだけでいいのか、あるいはそれ以外に何か考えているのか。スポーツを広めていきましょうということを投げかけているわりにここしかないとなれば、湯河原から、あるいは横須賀から、あるいは横浜や川崎のほうから来なければならぬというのは、健常者はともかく、障害のある方となるとなかなか難しい部分があって、だから分散していた部分があると思うのだが。機能的にはここが中心で、すごくよい機能になっていると思うが、そういう場所的なものについてはどういうふうに考えているのか。

応 答 アリーナ1については、老朽化に伴う補修工事というところが非常に大きかったというはあるが、この改修工事で大きく変わった点として、一つはフロアのラインなどをきれいに塗装し直したことがある。もう一つ、これが一番大きいと思うが、照明のLED化を実施した。従来の照明は正直薄暗く、他の市町村の体育館と比較してもどうも明るさが足りないのではないかということを指摘されていた。今回、非常に良質なLED照明を導入できたため、明るさが格段に向上したということは、今までとの大きな違いと言える。

また、県内でこれだけ様々なスポーツ施設が集約している場所というのはほかにあまりなく、平塚や横浜にも大きなスポーツ施設はあるが、これだけ大きなアリーナや屋外の競技場を集約した施設はそうないと思っている。身近なところでスポーツをする機会というのは、あってしかるべきだが、そちらはどちらかというと市町村に頑張っていただきたい。当センターは、市町村の施設では対応できないようなものや、合宿への対応、また競技人口の比較的少ないスポーツについて対応しており、例えばボクシングフロアなどがある。市町村の施設ではなかなか対応し切れないものについて、県のほうで対応し、県民が多様な競技を行えるよう努めていくべきと思う。他にも、宮ヶ瀬湖カヌー場や伊勢原射撃場、相模湖漕艇場のような専門の施設を県内各所に設置することで市町村と役割分担していくというのが現在神奈川県が取っている手法である。

また、課題として、にぎわいの創出や興業が挙げられる。県内では横浜に興業利用ができるような大規模な競技場などがあるが、県立としてはなく、その点についてはウイークポイントだと考えている。今日明日にすぐ結論の出る問題ではなく、神奈川県のスポーツ行政の課題ではないかと私は思っている。

私たちとしては、一人でも多くの方にスポーツをしていただこうというのは、使命と認識している。そのためには、そういう場所をどんどん造らなければならぬが、全市町村に県立の施設をというわけにはいかない。例えば県では、スポーツ施設を設置する場合に補助する制度があり、こうした制度を市町村に利用していただきながら、身近な場所でスポーツをする機会づくりに取り組んでもらい、市町村では対応できないようなニッチな競技については県の方で対応していくといった考え方で、取り組んでいきたい。

質 疑 厚木にあったスポーツセンターがなくなったことについてはどう思うか。なぜなくなったのか。西湘のほうについては、まだあるとはいえ、そういう認識が薄いと思う。

これだけ素晴らしいものだから、スポーツセンターは神奈川の中でここが中心であるという思いがあるとは思うが、本当はほかにもセンターがあるとしたら、あるなりの何かは考えているのか。

応 答 厚木のスポーツセンターや大和のスポーツセンターについては、市との調整を経て、市が中心となり、スポーツの機会を創出するものとして施設等を譲渡した。

小田原にある西湘スポーツセンターについては、老朽化が進んでおり、敷地の制約もある。どう活用していくかというのは、我々も課題として認識しているが、地元の方からの利用はかなり多い。小田原市が小田原アリーナなどの整備をしており、そのほかのスポーツ施設についても整備していく計画をつくっているという話も聞いている。そういう機会を捉えながら、県として、どのように、西湘スポーツセンターを県民の皆様に役立てていくのか検討を進める必要があると思っている。西湘スポーツセンターをフェードアウトするなどといった考えは持っていない。



(8) 調査結果

- アサンテ スポーツパーク（神奈川県立スポーツセンター）の沿革については、次のとおりであった。
 - ・ 昭和30年に陸上競技場及びサッカーコート、バレーコートを有する県営藤沢総合運動場として発足し、室内の体育施設及び各研究施設等が完成したことに伴い、昭和43年には神奈川県立体育センターとして供用が開始された。
 - ・ 平成10年に開催されたかながわ・ゆめ国体では、サッカー及びバレーボール競技の会場となったことから、平成9年に現在のスポーツアリーナ1と球技場の整備が行われた。
 - ・ 施設の老朽化に伴い、平成28年から令和2年にかけて施設の再整備を行い、現在のスポーツアリーナ2及び宿泊棟を新設し、また陸上競技場の観客席の改修等と併せて大幅なバリアフリー化を実施し、パラスポーツも含めた総合的なスポーツ推進拠点としての機能を充実させた。
 - ・ 施設名称を神奈川県立スポーツセンターとし、リニューアルオープン及び様々なイベントを企画・予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、約3か月の延期を経て、令和2年7月21日、感染対策と利用制限を行った上で供用を開始した。
 - ・ 令和7年4月よりネーミングライツを取得し、アサンテ スポーツパークとい

う愛称で現在は運営されている。

○ 宿泊棟については、次のとおりであった。

- ・ 42部屋を有し、基本は2人部屋であるが、エキストラベッドを配置することにより1部屋4人まで受入れ可能であり、最大で約160人まで受入れ可能となっている。
 - ・ 車椅子のまま方向転換することができるユニットバスを全部屋に完備しており、通路についても車椅子がゆとりを持って通行できる幅が確保されているほか、車椅子で利用できるエレベーターも2台設置されている。
 - ・ 各所に点字表記が施されている。
 - ・ 合宿や研修などで利用できるミーティングルームが2部屋あり、数日にわたる大会や合宿、特別支援学校の宿泊行事といった形での利用が可能である。
 - ・ 東京2020オリンピックでエジプト・アラブ共和国及びエルサルバドル共和国、パラリンピックでポルトガル共和国の事前キャンプの受入実績のある本センターでは、令和7年11月に東京2025デフリンピックのポルトガル共和国の事前キャンプ受入れを予定しており、宿泊棟をはじめ各施設が利用される。
 - ・ 1階には、ラウンジが設けられているほか、シダックスグループによって運営されるレストランが設置されている。
 - ・ レストランは、宿泊客以外も利用可能であり、壁面がガラス張りのため、陸上競技場で競技が行われている際は、食事をしながらその様子を見ることができる。また、合宿等受入れに当たっては、宿泊とは別料金となるが、3食の提供が可能となっている。
 - ・ 宿泊室使用料については、2名までの利用であれば一般1人1泊3,000円、高校生以下であれば半額に当たる1,500円である。
 - ・ 本センター内のスポーツ施設利用者のみ宿泊可能となっているが、利用対象の拡大については今後の課題であるとのことであった。
- アリーナ2には、メインフロア、多目的フロア1、屋内50メートルプール、ボクシングフロアやフェンシングフロア、ウエイトリフティングフロアといった専門競技に適したフロア及びトレーニングルームといった多様な施設が備わっており、また車椅子での利用等、障害のある方が利用しやすいよう、ゆとりある動線が確保されている。
- メインフロアについては、次のとおりであった。
- ・ バスケットボール2面、バレーボール6面、バドミントン12面などの利用が可能である。
 - ・ 各種競技での利用に対応するため、色分けしてラインが引かれており、大会等で使用する際に分かりやすくするために利用者の方でテープを張って色を変えることもあるが、基本的にそのまま利用できるようになっている。
 - ・ 専用マットを配置することにより、体操競技等での利用も可能となっている。
 - ・ 車椅子競技が行えるよう、コートの外にもゆとりあるスペースが確保されている。
 - ・ 2階部分には、車椅子用含め約420席の観覧席があり、練習会等での利用が可

能である。

- 多目的フロア 1 については、次のとおりであった。
 - ・ 障害のある方向けのスポーツに適したフロアとなっており、防音が施されているため、ゴールボールやサウンドテーブルテニスといった音を頼りに行うスポーツに適している。
 - ・ 障害者スポーツであるボッチャのコートなどのラインが引かれており、一般及び障害者が利用可能なボルダリング用の壁も設置されている。
- 屋内50メートルプールについては、次のとおりであった。
 - ・ 従来、屋外には50メートルプールがあったものの屋内には25メートルのものしかなく手狭であったところを改修により導入されたものである。
 - ・ 合宿などでは、8 レーンのコースのうち半面または4分の1面を占有利用として利用可能となっている。
 - ・ 半面の水深2メートルエリアについては、アーティスティックスイミングでの利用も可能となっている。
 - ・ スタンド等がないことから競技会には対応していないものの、プールそのものの規格としては、国際レースに対応できるものと比較してもほぼ同等のため、そういった大会に行く前の事前合宿・調整で使用されることもあり、実際、東京2020オリンピックに向けた事前合宿で選手団に利用された際は、大変使いやすかったとの好評を得ている。
- 専門競技に適したフロアについては、次のとおりであった。
 - ・ ボクシングフロアには、リングとサンドバッグが常設されている。
 - ・ フェンシングフロアは、ピスト（競技コート）設備が移動式となっているため多目的に利用可能で、さらにパーテーションを外すことにより広いスペースとなるため、大会等での利用も可能となっている。
 - ・ ウエイトリフティングフロアは、公式大会用のプラットフォームと8箇所の練習用プラットフォームが常設されている。
- トレーニングルームについては、次のとおりであった。
 - ・ トレッドミル（屋内用ランニング及びウォーキング機器）やエアロバイクによる有酸素運動やウエイトトレーニングを行うことができる。また、トレッドミルについては、視覚障害者用のものも備えている。
 - ・ 配置器具には使用を誤ると危険なものも含まれることもあり、初回利用時のみ、利用者に簡単な講習を受講してもらっている。
 - ・ 利用に当たっては、建物入り口の受付付近の券売機で券を購入する形となっており、利用料については、一般利用者が3時間で500円となっており、民間の同様の施設と比較すると格段に安価であるとのことであった。
- 陸上競技場については、次のとおりであった。
 - ・ 第2種公認陸上競技場となっており、等級によって備えなければならない備品やレーン数といったルールがあるが、2種であれば、おおよその目安として関東大会規模までの大会が開催できることであった。
 - ・ 約5,500人まで収容可能であり、スタンド席だけでなく、外周の芝生部分につ

いても例えば中高生等がテントを張るなどして過ごしているとのことであった。

- ・ 1周400メートル、8レーンのトラックを有する。
 - ・ 全天候舗装となっており、雨天であっても利用可能である。
 - ・ エレベーターやスロープが整備されているため、スタンドからフィールドまで車椅子での移動が可能となっている。
- 補助競技場については、次のとおりであった。
- ・ 1周300メートルのトラックがあり、インフィールドに人工芝のフットサルコートを2面有する。
 - ・ フットサルコートについては、照明機器が整備されている。
- テニスコートについては、次のとおりであった。
- ・ 人工芝のコート8面を有する。
 - ・ 照明機器が整備されている。
- 球技場1については、次のとおりであった。
- ・ 約970席のスタンドを有する。
 - ・ 天然芝が整備されており、従来は夏芝のみであったため1月から5月中旬までは供用ができなかったが、冬芝を併用することで、今後は供用停止期間を養生工事期間の1か月のみに短縮できる見込みとのことであった。
 - ・ スプリンクラーが整備されている。
- 球技場2については、次のとおりであった。
- ・ 人工芝の球技場となっている。
 - ・ 主にサッカーやラグビーで利用可能であり、例えばジュニアサッカーでの利用であれば2面での利用が可能であるとのことであった。
- これらアサンテ スポーツパーク（神奈川県立スポーツセンター）において聴取した多様な施設を活用したスポーツ推進に係る内容は、本県のスポーツ推進に係る今後の委員会審査をする上で、参考となった。

3 神奈川県立県民ホール本館

(1) 調査目的

神奈川県立県民ホール本館は、優れた音楽、演劇、美術等を中心に、県民の文化芸術活動に長年供されてきた施設であり、本県における代表的な県立文化施設であるとともに、現在、施設全体の老朽化に伴う再整備のため休館中であり、再整備後の姿について神奈川県立県民ホール本館再整備基本構想策定委員会における議論がなされているところである。

そこで、神奈川県立県民ホール本館を訪問し、建て替え前である同館内の各施設の特性及びこれまで果たしてきた役割等について調査することにより、今後の委員会審査の参考に資するものとする。

(2) 調査先出席者

ア 文化スポーツ観光局出席者

今井明文化スポーツ観光局長、富岡傑副局长、関根真琴総務室企画調整担当課長、

- 宮崎庸晶県民ホール再整備担当課長
イ 公益財団法人神奈川芸術文化財団出席者
専務理事、神奈川県民ホール支配人、神奈川県民ホール舞台技術担当部長、
神奈川県民ホール施設運営課長ほか

(3) 委員長挨拶



(4) 文化スポーツ観光局長及び公益財団法人神奈川芸術文化財団専務理事挨拶

(5) 概要説明及び施設見学

次の内容等について、説明があった。

- ア 休館中の県民ホール本館の現状
イ ギャラリー
ウ エントランスホール
エ 大ホール
オ 小ホール



(6) 質疑応答

質 疑 最も入場料の高い演目となると、どういったものになるのか。

応 答 海外から誘致したオペラではチケット代が6万円や7万円などの公演もある。日本の歌手でも1万円や2万円というようなこともある。
本館で主催する場合には、指定管理料を投入し、県民のためにチケット代

を廉価に設定し、数千円で上演することもあるが、海外から誘致したり、それに伴い、物を運んだりとなると、高額にならざるを得ないということはある。

とはいっても、県民ホールは利用料金が安価で、かつ約90%の稼働率であったため、毎日違う公演が実施されていたことから、施設設備に不具合が生じ、修理修繕が必要な場合、その修理日を確保するのに苦労することもあった。

6階には定員240名の会議室があり、様々な講演会や会議などで使用できる。例えば、ギャラリー利用に併せて講習会や表彰式を開催するなどの汎用性もあった。

質 疑 バリアフリー化に課題があるという話があった。その他、再整備の際に改善しなければならないような機能等があれば聞きたい。

応 答 舞台に関しては、照明機材のLED化が進んでおらず、また舞台機構や音響設備がデジタル通信に対応していないため、そういったことに対応した設備を備える必要がある。

また、外部に向けて配信をする公演の場合、そういった設備が整っている施設が借りられているということがあり、県民ホールにおいても備えていく必要がある。

また、バリアフリーに関することとして、エレベーターの設置を検討したことがあるのだが、小ホールも大ホールもロビーも全面的に改修しないと、既存廻り、既存不適格となり全面改修になるということで、エレベーターやエスカレーターの設置等を諦めた経緯がある。

空調関係については、改修が非常に大変で、全面的な改修となると施設の休止期間も相当長くなるという問題があった。コロナ禍では、風量を増やすということはできたものの、溜まっていた埃が出てきたなどということもあった。

先ほど地下の設備を見学した際に分かってもらえたと思うが、様々な設備のパイプが何層にもなっている状態であり、一つの設備の修繕のために全てバラさなければならない。50年前のものなので設備は丈夫なのだが、一つ駄目になると色々なものに波及してしまうことがある。こうしたことから、改修するよりも建て替えたほうが、バリアフリー含め、よいものを県民の皆様に提供できるのではないかということで、今、進んでいる状況である。

質 疑 今の説明は、大変分かりやすかった。建て替える方向で考えているということだが、専門の方々は、検討委員会に入っているのか。今言ってくれたようなことも盛り込まれるような形で動いてくれているのか。

応 答 プロモーター、バレリーナのような舞台に立つ側の方にも入ってもらつ

ている。また、関係団体に様々ヒアリングをしており、その中では、主催者側や利用者側の意見も聞き取り、それを策定委員会に報告し、基本構想に反映していく。

意 見 創立以来50年間の中で、時代が変わって、色々なものが今クリアされていないということから考えると、それをクリアすべく意見をぶつける人がいなければ、変わっていかないと思う。デジタル化だって、今の我々からしてみれば当たり前に思えるかもしれないが、50年前には、誰も言っていないわけである。社会が進化した分、それに追いつく分、あるいはそれを追い越すほどの最先端でやっていかなければいけないということが大事なわけで、そこをやはりしっかりとしていくなければならないと思う。歯がゆい部分もたくさんあると思うから、そういうことも酌み取ってもらって次に生かすということが一番大事だと思う。

質 疑 パイプオルガンについて、新しく作ると一億円くらいかかるという話があったが、パイプオルガンの文化的価値というか、例えば全国的に見てこのタイプは珍しいなどといったことがあれば、教えてほしい。

応 答 当館のパイプオルガンを製作したドイツのクライス社は、パイプオルガン製造会社としては相応に有名なところである。日本の公共施設で初めてパイプオルガンが導入されたのがこのホールであり、月に何回も、それも安価な金額で、お昼の 30 分や 1 時間で 500 円などといったコンサートをずっと続けてきたので、このオルガンに親しみを持っているファンは多いと思われる。しかし今は、サントリーホールや新国立劇場などは、この 3 倍くらいのオルガンがあったりするので、歴史的な価値はあるかもしれないが、それがどう判断されるかといったところだと思う。

質 疑 我々も香港の例など様々見てきたが、1,300 席や 1,500 席といった中ホール規模が使いやすいということはあると思うが、そういったことについてはどう考えているか。この小ホールのようなスペースでもいいのかどうか。

応 答 私が聞いてきた中では、基本構想策定委員会の委員から 300 席から 800 席くらいが県民利用としては使いやすいといった声があった。1,000 席ということをこちらで考えたこともあるが、この敷地に大ホールと中ホールというのが収まるのかと業者からも言われているので、1,500 席というとなかなか厳しいのかなと思う。

質 疑 今、大ホールと中ホールでできるかどうかという話もあったが、元のキャパシティを変えていくという考えはないのか。例えば、ここは県民ホールだが、近隣施設とミックスして、大きなものとしてホールを造っていく。近隣

施設は、神奈川県のものと横浜市のものと色々あるかもしれないが、横浜市と連携を図って、せっかく港がある素晴らしいシチュエーションがあって、それは先日我々が視察に訪れた香港と同様の利点であるわけだが、それで、その前にいわゆる 100 年に 1 度の事業なわけだから、それくらい気合を入れてやらなければならないと思う。

応 答 今、横浜市がまちづくりビジョンの素案を出して、今年の秋頃に成案ができるというふうに聞いている。その中でもまちづくりということを言っているので、それは意識しながらやっているところで、近隣の施設と連携しながらどういったことができるかといったことは視野に入れながら進めている。

質 疑 県が主導するのか市が主導するのか、それはそちら側で一生懸命検討してほしいが、神奈川県単独でやるのでは力不足であるわけで、土地にもお金にも余裕はない。そうであれば、横浜市とどれだけ連携をして神奈川県の誇れる施設にしていくかというそれだけの気合を持ってやらなければならない。そういうことは基本構想策定委員会では言えないことで、我々議会が応援すべきことである。県民ホールのこれからを考えるために我々は香港で実際に色々見てきたので、委員の皆も、やはり神奈川県だけでちまちまやるのではなく、横浜市と連携しなければ意味がないと感じていると思う。

応 答 前から色々なところで出てきた話であるが、県民ホール、産業貿易センター、シルクセンター、どれも昭和のもので、一定年経って老朽化している中で、元々、ここをどうしようかという話が横浜市との中で出ていた。現在、考えてはいるが、やはり今、周りの住民の方がいて、各施設の所有者がいて、テナントがたくさん入っているという中でどういった形でというのは、今相談しているところである。基本的にはまちづくりの話なので、横浜市ということで、県の基本構想策定委員会というのは、県民ホールの在り方、機能というのをどうしていくか、それはそれとして、トータルで考えたときに開かれた県民ホールというか、やはり気軽にに入る、町なかに溶け込むという意見はあるので、そこは今後、横浜市と相談していきたい。

質 疑 現在分かっている範囲でいいのだけれど、建物についてどれくらいの予算規模で設定しているのか、またこういった文化施設については国からの補助はあるのかどうか。また、県民ホールであるのだから 33 市町に理解してもらう、あるいは協力してもらうといったことについてはどう考えるか。

応 答 施設の金額については、令和 5 年度に予備調査を行った際は、延べ床面積 3 万平方メートル弱の現在と同規模のものを作るとなると、当時、平米単価 120 万円程度が平均だと言われていて、400 あるいは 500 億円くらいになるのではないかという規模であった。物価高騰があり、直近でも平米単価 150

万円くらいになっているのではないかというような話はしている。

補助金については、文化庁の補助金というではなく、例えば防災機能を設ければそういう関連のお金は付けられるかもしれないということは検討している。その部分だけなので、金額としてどの程度の規模となるかについては分からぬ。

市町村の協力については、文化事業のほうでは、県内各市町村を回って実施しているので、そういう面では協力・連携は十分しているところだが、施設の整備については、特段できていない。

質 疑 ホールの客席数の話があったが、アーティストにとって実際、2,000人以下のコンサートというのは、結構やるものなのかどうか。

応 答 大ホールの2,500席という規模がちょうどフィットする客数というケースもやはりある。それ以上になるとアリーナで、5,000席や1万席となる。プロモーターとしては2,000席規模でないと興業にならないと言われており、1,000席規模では厳しい。2,000席から2,500席といった規模が合うイベントやアーティストが日本では多い。今、大ホールの再整備後の客席数については、基本構想策定委員会の資料では2,000席から2,400席程度とされている。



(7) 調査結果

- 休館中の県民ホール本館の現状については、次のとおりであった。
 - ・ 当時全国屈指の大規模文化施設として1975年に開館した県立施設である。
 - ・ 2025年4月1日より休館しており、県民利用・入館の受入れを中止している。
 - ・ 指定管理者の公益財団法人神奈川芸術文化財団が事務室を使用し、館内の整理をしている。
 - ・ 館内の様々なものを有効活用していく方針で整理を進めており、県の文化施設や学校、市町村の施設等の方々に物品・備品等を見てもらい、活用できるものがあれば引き渡すといった手続きを順次進めている。

- ・ 節電の観点から電気容量を落としており、空調についても限られた場所で必要時のみ使用している状態であった。

- ・ 地下の展示室において、所蔵美術品の燻蒸作業を行っているとのことであった。

○ ギャラリーについては、次のとおりであった。

- ・ 1階及び地下1階に位置し、第1展示室から第5展示室まで存在する。

- ・ 広さとしては、第1展示室が144.9平方メートル、第2展示室が143.7平方メートル、第3展示室が191.8平方メートル、第4展示室が173.3平方メートル、第5展示室が657.5平方メートルで、合計1,311.2平方メートルとなっており、面積が広いことから、貸付要領に則り、絵画、彫刻、工芸、デザイン、写真、書道等に類するもののほか、主催事業では、企画展開催時に関連イベントとしてアートコンプレックスの要素を踏まえた公演を実施することもあった。

- ・ 天井高については、第1展示室が2.7メートル、第2展示室が2.7メートル、第3展示室が3.5メートル、第4展示室が3.5メートル、第5展示室については地下1階部が6.5メートル、1階部が2.7メートルとなっており、高い天井により、大型の美術品の展示にも堪えうる構造となっている。

- ・ 開館していた頃から、例年、神奈川県美術展の会場となっており、第1から第5まで全ての展示室を用い、それぞれ工芸、書、写真、平面立体などジャンルに分けて展示が行われていた。

- ・ 壁面によっては突起を備えており、それを引き出すことで、展示に際し、絵画等を掛けることができる。

- ・ 休館中は取り外されているものの、開館していた頃は、天井に配置されたレールライトにより、どの位置に作品を展示しても照明が当たるようになっていたとのことであった。

- ・ 海が近いという立地上、またギャラリーを構成する展示室は地下に位置するものが多い関係で、湿気が溜まりやすいという課題点があるとのことであった。

○ エントランスホールについては、次のとおりであった。

- ・ 正面玄関は、山下公園側に位置している。

- ・ エントランスホールは、大ホールと小ホールの間に位置するが、県民ホールは、建物の構造として、二つのタワーの間を何層かでつないでいるような形になっており、2階に位置するエントランスホールのほか、1階及び地下1階にギャラリーが、6階には大小会議室及びレストランが位置するなどといった形となっている。

- ・ 休館中であるため、エントランスホールは、大ホールの備品等が運び出されているような状態であったが、開館していた頃は、喫茶コーナーでコーヒーや軽食の提供等も行われていたとのことであった。

- ・ 棟方志功作の版画をもとにしたタペストリーが飾られており、これについては、かつて小ホールのどんちようだったものが小ホールの利用が音楽関係での利用に限定されたことに伴い取り外され、移設されたものである。

○ 大ホールについては、次のとおりであった。

- ・ 客席、舞台及び奈落等で構成される。

- ・ 客席として立見席を含め2,493席を有する。
 - ・ 1階1列目から5列目までは、催物の内容に応じて、オーケストラピットまたは張り出し舞台として利用されていた。視察時は、休館中であったため、客席を外した上で、備品等を並べ、整理している状態であった。
 - ・ 照明機器についても、休館に伴い、取り外した状態となっていた。
 - ・ 歴史ある昔ながらの劇場であることから、スタイルとしては、舞台の間口が広く、客席は、2階席や3階席含め、舞台からの距離は比較的近く、どの席からも比較的見やすいと言われているとのことであった。
 - ・ 舞台に設けられている音響反射板は、電動による前後移動が可能であり、オーケストラ等の演奏に当たっては、舞台上に組んだひな壇を後ろから囲うような形で音響を調整する形となる。
 - ・ 700キログラムまで吊り上げができる吊りバトンを有するなど、舞台設備については非常に強固な構造となっている。
 - ・ 奈落から舞台へとせり上がる形となる幅約14メートル、奥行4メートルの大迫りが前後に並ぶ形で2基設けられており、搬入時に用いられていた。
 - ・ 奈落には、かつて公演の際に書かれたとされるサインのようなものがコンクリートの壁や柱に見られる。
- 小ホールについては、次のとおりであった。
- ・ 近くの搬入用エレベーターから搬入が可能であり、また同エレベーターは、ギャラリーへの搬入時にも用いられるとのことであった。
 - ・ 客席として433席を有する。配置がシンメトリーになっていないが、開館当初はパイプオルガンが舞台向かって右側に設置されていた名残である。同オルガンは、1989年に舞台正面に移設された。
 - ・ パイプオルガンについては、30ストップ及び3段鍵盤ペダルとなっており、ドイツのクライス社製のものであり、開館当初より設置されている。
 - ・ 壁面及び天井には、音響反射板が配置されている。
 - ・ バリアフリー対応として、客席前方に可動席を設け、車椅子での鑑賞スペースとすることができますが、車椅子の形状によっては後ろの席の鑑賞の妨げになることが考えられ、また50年前に建設された現在の建物ではエレベーターを新設することも難しく、また横になった状態の観客の鑑賞補助等についても今後の課題であるとのことであった。
- これら神奈川県立県民ホール本館において聴取した同館内の各施設の特性及びこれまで果たしてきた役割等に係る内容は、本県の神奈川県立県民ホール本館再整備等に係る今後の委員会審査をする上で、参考となった。